

180 170 160 150 140 130 120 110 100 90 80 70 60 50 40 30 20 10



三  
帰 厂  
二會目  
一  
兵庫  
農屋  
見附花  
引又宋  
廣  
呂  
音  
都  
見附  
都  
公賃絲  
寺部弘  
成  
繁  
琴  
豐  
直  
浪  
金  
房  
多  
岐阜俊  
仙府多  
今尾幹  
三  
主  
兵庫  
農屋  
見附花  
引又宋  
廣  
呂  
音  
都  
見附  
都  
公賃絲  
寺部弘  
成  
繁  
琴  
豐  
直  
浪  
金  
房



卷之三

春月

ナコヤ 日  
妻の夜の月をかく井 桂てよしと重ねうけ  
さくまくのくわくわくへ 一方波を強よろよむよるよの月

八  
さきの聲のやうは／＼すこしあと振りこみあらゆるゆく日 一宮  
連

様のたまむかひ人をえもてまよひのよ

波賀菊次郎の筆

小  
ハシ  
栗

まよの歌の月の音かわらわら風やまくろん スキト 森林

居る事多しやむろん仕事もあつたゆゑトヨウ日 猫田  
諸トコヤ咩

於すのものもひの紙の物をもつてゐる。月 南へ夕田

春雨

十二  
たゞひまく、まことにあらわす

イセツ  
津

留

九

卷之三

卷之三

卷之三

十一

山吹

蛙

士  
まきはせりあみを井のうとまくもと種ともすともん。毛馬酒  
吳牛の村かすみれうへうらへ桃のまるひくくわく  
八  
ハ  
八  
ハナワ音  
か  
か  
衣子浦纏  
苗代ヨシキアラウカサハキヤモトヨムンモノシテ  
臣  
タコニ清  
ヨシモヒノ山田シキリクハキアリトスアシキキヤ  
ナミカ菊  
シテウシハキアセテウスハシの本ハシツクシソ  
ワト蔓  
月の葉ハシツクシの本ハシツクシソ  
毛馬酒  
ホタルのわタスヒキアリハシツクシソ  
ナカ岡  
さけうつる月のがよやめモルハのうつてあよ／＼さき  
ミリ井茂登  
直  
守

野遊

上

卷之三

シハタ 菊 寿 丸  
越府中 梅 里  
仙 フ 一  
松 馬 巨  
森 樹 難  
ナコヤ 友  
あゆの日  
葉のやのすうわわくすむかわうせのまひ舟

卷之三

妻花都彥の風良丸津伊セツ全荻の屋

つまやみのきくくとくめてあくまくひめぢうら綾あづまうひかく

卷之三

商 金 住 漲 風 枝 住 先 先

春  
絲



卷八

丁度今日の日もまたおまかせをあつたる日も 小谷 千代 波  
よしむすめのさくらみこゑんやくはな花めくらうえん 引入宋  
ハモチム被とひそてまゆ日へやくのゆゑに萬のタレモ  
あらぐれ被ふうつうのきのまもあせるまの旅 日記 亭尾 常  
あきののまもあひてこそ花めくらみこゑの旅路へ 谷貴絲 繫  
古ふくふくくわんやくは旅人のゆゑをかづく。丁のふつて 仙フ直  
うふくわんやくは旅人のゆゑをかづく。丁のふつて やう官筑  
あらうをめく日あくわくのよつらのひまちの日の旅 え助秋  
人

初午

八  
もつ年めのまをも酒と舞にて清めよかたのとく  
ワカ山園栗園

猫恋

ナハタ千代雀  
ハタチのくじへ時をゆめふ斗りうめやつめをとくわと  
ハタチのくじをくじあくべひくひくとああああわと ヨリ井種  
あわくあくとさくくらや破れさくしわれてはくへ風の放矢 南畠亀  
アカハタのくじわくせきくじくじくじくじくじくじくじ  
有田黄九

雜

ひきうちへとあるかと見て、解りぬるより上戸のあらむ。下井橋向  
有  
引又  
宋

井橋向有

卷之三

鶴合

ハシマニモテタヒト日ノ西ノムヒタニモテアリ  
古ヤ童  
万

古 ヤ  
童

彥屋

出代  
満枝  
みゆかる務  
務経の餘  
化り立つて三日月のうけ

景  
引  
住  
栗ハシ佐  
兵庫一  
の屋  
調  
便  
石  
館

便 調 一 佐 引  
の  
住 館

備家城  
上中下  
同領直  
十紅燒  
外中德  
諸也  
告君言  
名如  
知  
今歲  
當來基  
先燒殿  
上中下  
備家城  
上中下  
同領直  
十紅燒  
外中德  
諸也  
告君言  
名如  
知  
今歲  
當來基  
先燒殿

趙復作仁子社

評大列前十譽

小列海一万代榮

加山能未齡叟

高城